



議会、意見書を提出

議員の総意が町の意向を変えた

3月議会の初日、私は「歴史民俗資料館移転に関する意見書」を提出しました。まず原案を書いて各議員にファックスを送り、賛否を問うたうえでそれぞれの要望を原案に加筆しました。賛成議員は11人全員で、まさに議員の総意と言える「意見書」になりました。

意見書の要点

八丈町が有力な移転先とした旧八丈島測候所は、以下のように問題が多く納得できません。

1. クリーンセンターの隣で市街地から離れている
2. 移転費用の積算方法に疑問
3. 検討委員会など議論の場を経ずに旧測候所ありきでスタートした
4. 1年間の休館を前提とした移転は観光に打撃

こうした問題点を解消するために、すでに通告されている建物の貸借契約終了期限をおおむね2年程度延長し、耐震工事などを含めた当面の対策について東京都と交渉するよう強く求めるとともに、資料館移転および整備に関する検討委員会の早期実現もあわせて要望します。

一般質問でも 議会2日目の3月22日に行われた一般質問では8人の議員が登壇し、そのうち6人が資料館移転に関するテーマを取り上げました。

山本忠志議員 一時移転に向け、住民を含めた検討委員会の設置を求める。

山下 巧議員 ジャンル別に数か所に分けて展示し、現資料館を倉庫に。

沖山恵子議員 民間の施設を借りあげて臨時展示場にする可能性は。

岩崎由美議員 問題が長引いた原因は何か。建設に向けた基金の創設を。

菊池睦男議員 現資料館を恒久的に。そのための都の支援の可能性は。

私は、この意見書に対する町の見解と、現資料館の敷地内にプレハブを建てる案の可能性を質しました（後述）。



町の対応は こうした議会の動きに対し、ついに町は「今回上程されている旧測候所調査費は一応通していただき、検討委員会での審議を見ながら組み換えて対応したい」と予算を凍結する意向を示しました。測候所案はほぼなくなりました。検討委員会もすぐに立ち上げると約束し、委員の構成も決まりました。1年近くにわたって議員が粘り強く町に訴えかけた成果だと思えます。

検討委員会が発足 公募の4人と、議会からは総務文教委員長菊池睦男議員、経済企業副委員長の岩崎由美議員、それに私の3人で、それに教育課職員と2人の文化財専門委員が加わり、会を構成することになりました。第1回の検討委員会は5月22日です。一時移転と本格的建設に向けた議論が始まります。



2017年3月議会 一般質問



1. 八丈高校の魅力をもとめるための対策を

人口減少に歯止めをかける施策として、町は様々取り組んできましたがまだ道なかばです。高校に限らず、学校の存在は移住促進策のかなめと考えられます。島に高校があるかないかで、Uターン者の定着率が大きくかわるとも言われています。八丈でも力強い支援・施策を実行するよう求めます。

(1) ハワイ大学カピオラコミュニティカレッジ提携調印式招待事業と、高校魅力化プロジェクトに対して予算化した目的はなにか。また、「ハワイリーダーシッププロジェクト」事業に公的支援を行う考えはないか。

町 姉妹島マウイとの交流にとどまらず今後はハワイ州という大きな視点で交流を継続したいという観点で、高校の魅力化については島外からの誘致と島へ帰る人材育成の観点から予算化した。ハワイ研修については、十分意義を感じているが、民間で始まった事業なので、町が支援する方法を検討している。

再質問 ハワイ研修への支援は検討するだけでなく実現させてほしい。

町 参加人数が少数であること、八高での位置づけが確立していない。

(2) 八丈高校留学の受け皿となるホームステイ事業を充実させるための施策は。また募集枠の拡大は可能か。

町 ホストファミリーの確保が第一の課題だ。枠の拡大は可能だが、現時点でホストファミリーが増えないので難しいと考える。

(3) 八高への入学は減る一方で、この事態を一番心配しているのは、実は八高生自身だ。島の中学生が八高に進学するよう促す施策はあるか。

町 進路の選択は個人の自由だが、町ができる点については協力していく。



2. 高齢者の足をどのように確保するのか

(1) 高齢者の自動車免許返納をすすめる考えは。

町 国の法改正に準じて、高齢者のなかで不公平感がないよう、慎重に考える。

再質問 今後どの方をどのように支援していくかを決めるのに役立つので、返納した人の名前を包括支援センターが把握しておくべきと思うが。

町 個人情報の問題もあるので、即答できない。

(2) 返納と同時に、バスやタクシーや他の交通機関を整備する考えはないか。

在宅介護をすすめる町としては、高齢者の足を確保することは外せない戦略だと思う。バス停まで行くのが負担な方も多く、デマンドバスの導入を求める。

町 シルバーバスの費用を町が負担するなどを考えている。デマンドバスは畑や釣り場には行けない。高齢者の利便性を確保し、生きがいをなくすことなく「足」を確保する方法を考えていく。



3. 歴史民俗資料館の移転は将来を見据えたものに

資料館移転をめぐるこれまでの経過は議会軽視、現場軽視で進められてきたという印象をもっています。すでに提出した意見書は議会の総意であり、町は意見書の内容を尊重し、資料館の将来に期待がもてるような移転を考えていただきたい。

(1) 意見書に対する町の回答は

町 意見書の要望のひとつは建物の賃貸契約延長と耐震工事、もう一つは検討委員会の設置である。前者については、資料館が東京都の建物であるため、交渉が必要であるがかなり困難と考えている。後者については早期実現する。

(2) 現資料館の土地を、東京都から払い下げてもらえば新たな可能性がうまれる。その道を探るべきと思う。たとえば、資料館の駐車場の半分にプレハブを建て、バスは近くの駐車場（来年度、宇喜多秀家の墓のそばに駐車場が整備される）に待機し、現資料館は倉庫として使うという考えはないか。

町 払い下げてもらうとなると、町が耐震工事をすることになるので慎重に対処したい。検討委員会の中で審議していく。

八丈支庁幹事会 5月10日 事業説明会のあとの質問事項と回答

(1) 歴史民俗資料館の一時移転に支援を

移転場所については議会でも様々な案が出されましたが、一長一短です。そこで浮上したのが、支庁の一階の展示室を利用するというものです。貸借期間の期限が1年後に迫るなか、休館をせずに本格建設に向けた議論をすすめるためにぜひご協力をお願いしたいと思います。また、この場合展示品が一部に限られることから、残りの資料の保管場所も検討課題になりますが、現資料館が保管場所として使用可能かどうかについてもご検討いただけたらと思います。

総務課長 一般論としては可能だと思うが、いくつか手続きが必要になるし、公有財産管理運用委員会で審議することになると思う。倉庫としての使用については用途外使用になるので、これにも手続きと時間が必要になる。

(2) 道路案内標識における英語表記に改善を

オリンピック・パラリンピックを3年後に控え、島内道路の案内標識を外国人にわかりやすい表記に改善していただきたいと思います。Hachijo-issudoro Ave.や、chuodoro Ave. など、外国の方がすぐに認識できないような表記になっています。改善できないでしょうか。

土木課長 一見わかりにくい表記だと感じるかもしれないが、外国の方が日本に来て、人に聞いたりタクシーに乗って道をたずねたりする場合、この表記どおりに説明した方が日本人に通じやすいという観点からこのような表記で統一している。理解していただきたい。



3月議会での質疑から

● **マイナンバーの発行** マイナンバーのカードの発行はどれくらいあったか。

町 730人の申請があり、563件が交付済み

● **中途退職者** 町職員の中途退職者が多かったと聞かすが、病院関係で退職者はどれくらいいて、その内訳は。退職者が出ると在職している看護師に負担がかかる。命に関わる場所なので、欠員がないよう対策をたててほしい。

町 看護師 4人、事務 1人、理学療法士 1人が退職した。看護師については2人採用し、今2人不足している。いろいろな方法で募集をかけていく。

● **ドローンの利用状況** 今年度防災目的にドローンを2台購入しているが、どのように使っているのか。観光PR用の動画を作成する予定があるようなので、これにドローンを活用したらどうか。

町 先日は沖合に停泊している掃海艇を撮影した。こうした防災時とは別の活用も考えている。観光動画への活用については検討したい。

● **おしごと掲示板** 今年度から始まった掲示板の応募状況はどうか。

町 業者からの求人応募はけっこうあるが、求職の応募は少ない。

● **地域支援事業のうちの総合事業** 2017年度から総合事業がスタートする。その事業の受け皿としてシルバー人材センターにお願いするとのことだったが、シルバーとの話し合いは進んでいるか。

町 シルバーに登録していて総合事業に協力できる方は50人くらいだったが、この方々を対象にして、近々研修会を開く。対象者は60人程度を見込んでいる。



地熱発電利用事業の住民説明会

4月10日から13日までオリックス株式会社による事業説明会が開かれ、私は13日に参加しました(商工会研修室)。

東京電力の敷地を利用して掘削、発電する仕組みや、臭気対策、夜間余剰電力を蓄電して利用・消費する方法などの説明がありました。また、事業連絡会をつくり、住民からの意見を聞き、事業を進める過程の報告などを行なうとしています。参加者からは多くの質問・意見があり活発な意見交換の場となりました。島の発展につながる事業になるよう、住民も協力しなければと思いました。

編集後記

今年はいつまでも寒気が居座っていたので、フリージアの開花がまつりに間に合わず、がっかりされた観光客も多かったようです。議会でも、準備やおもてなしが不十分だと指摘がありました。私も4月2日に観光で来島した大学時代の友人夫妻を案内しました。球根ごと掘り出すための竹べらが用意され、入念に選びながら抜き取った花は係の人が新聞紙で包んでくれます。束の中には自宅での栽培方法を書いたパンフまで入っていて、「至れり尽くせりで感激した」と喜んで帰って行きました。シルバーの方々の丁寧な対応のおかげで、ハ丈ファンが増えました。